



あと10日ほどで秋の入口9月をむかえます。

早いですね 時の流れは。こどもたちの無邪気にあそぶ様子を観ながら心の焦りを鎮める私たちスタッフです。

本格的に運動会の練習の毎日になります。

くり返しくり返し同じ練習の時もあるでしょう。それに耐えて喜びを掴みます!

■この夏休み中に各教室の床の補修の工事を行いました。

園舎は平成13年3月に竣工しております。

- 昨年、年少組と年中組のデッキ工事を、

昨年は年長組とホールの屋上のデッキ工事を。そしてこの春に年中組屋上のデッキ工事を全て耐水の新素材を使って完了しております。



教室の床は、ホールと廊下の素材と違って軟らかな板を使っております。

その為、表面の汚れと傷みが目立って来ました。

床面を削ってWAXで厚くコーティングしました。

二集園の折にせひ屋上も教室も下かい。

■冬の毛糸の帽子については、毛糸の注文と編み方について後日お知らせをいたします。

毎年のことですが、卒園生がパパと

ママになって我が子を入園させてくれております。

毎年ですが増えております。とてもうれしいことです。

先日、卒園児だったママから「私が使っていた帽子が」

ちゃんと有るんです。それを使ってとても良いですか?」と。

「もちろん」

「いいですよ!」と。

うれしいですね♡

(心の育ちシリーズ)

凄い「こだま」の力

自分が人間だとなぜ分かるの? と小学生に問うと、「人間のお母さんから生まれたから」と言いました。

人間のお母さんから生まれても、犬の群れに置かれたら、その赤ちゃんはきっと自分を犬だと思えます。なぜか? 「まわりがみんな犬だから」です。

つまり、まわりに居るみんなが人間だから、「私は人間だ」と気付くことが出来るのです。

かつてまわりの大人は、私たちを自分のこのように思ってくれていました。

たとえば、私が転んで「痛い」と言うと、「痛いね」と言ってくれました。それで痛みは半分になり、「痛いの痛いの飛んでいけ」までして来て、痛みは消えました。

でも、ある時から私たち大人は「痛くない!」「泣くな!」と言うようになりました。そう言われたこどもたちはどう思っているでしょうか?

一度と「こだま」してとらえないその痛みは、こどもの心の中に全部残ります。

やがて心の中が痛さや悲しさやさみさでいっぱいになります。そして、ある日、器をひっくり返し空にするかのような大きな問題を起すのです。その時「なぜあんないい子が」「なぜあんな優しい子が」とその子のせいになります。

「こだま」の基本は、「丸ごと受け容れる」と言うことなのです。

実は「こだま」の原形はお母さんと赤ちゃんの心音から始まっています。お腹に聴診器を当てると、赤ちゃんの心音がトククと、その次にお母さんの心音がドクドクと...

「いるよ」「いるね」「大好きだよ」「大好きだよ」とお母さんと赤ちゃんの心音がこだます。だから生まれることができるのです。

こだまは人間の営みの中で、最も美しい行為なのです。

金子みすず記念館 館長 矢崎 節夫 談